

NPO 設立趣旨

沈滞した町からにぎわう町へ

橿原市八木札の辻周辺地区は、東西には大阪と初瀬・伊勢を結ぶ旧横大路（近世には旧伊勢街道）、南北には奈良、大和郡山と飛鳥・吉野を繋ぐ旧下ツ道（近世は中街道）が交差する古代からの交通の要衝であり、今でも伝統的な町家や町並みが残されており、歴史的市街地を形成している。また、現在も、近鉄大阪線と近鉄橿原線の大和八木駅及びJR桜井線、国道24号線、165号線、169号線が縦横に交叉する中南大和の中核地区にあたる。

しかし、この中心市街地は、社会的経済的变化に伴い空洞化が目立ち、伝統的な町家が失われつつある。戦前、戦後にかけて形成された低層の木造戸建て住宅や長屋の密集地域は、2m以下の狭隘道路に面している敷地であり、建築基準法上の接道不良状況のため、建て替えも進まない状況にあり、防災上問題を抱えている。

また、旧伊勢街道には、接待場や井戸などの歴史的環境が残されてきたが、この旧街道も、都市計画道路に決定されており、建て替えや空き地化が進み変貌する危機にある。地区内には、JR畝傍駅、旧和歌山銀行、県立畝傍高校などの歴史的価値が高い近代建築物も点在している。

そして、中南大和の夏祭りの最後をかざる「八木愛宕祭」は、自治区ごとに立山が建てられ、昔日ほどではないが「まち」がにぎわう行事である。

これらの歴史的資源を活かし、住環境の改善を図り、本地区が「歴史を尊重して生き生きとしたまち」として活性化するため、地元市民やまちづくり専門家が、草の根市民活動を展開することが必

要との考えから、「八木まちづくりネットワーク」を設立するものです。

古道の交差点「札の辻」から

平成13年12月に、八木札の辻境界の伝統的建造物や歴史的町並みを、貴重な歴史的資産と考え、これを生かした「まちづくり」を進めることとして、地域住民や行政、建築士などの有志により「八木札の辻の町並みを考える会」が発足させた。その後、町家所有者の理解を得て、伝統的町家の実測調査を行い平面図・立面図を図化し、旧街道筋の連続立面図を作成している。

また、本地区の歴史や町並みの価値を多くの人に知っていただくために、「八木の昔むかし」や「おかげ参り（伊勢参り）と八木の町」などの講演会を開催してきた。平成15年には、「全国町並みゼミかしはら・今井大会」において、分科会「近代建築物の保存とまちづくり」を担当し、平成16年には、橿原市の「JR畝傍駅駅舎の活用懇談会」での提言、「橿原市都市再生パートナー検討会」への参画をした。

これらの調査及び懇談会等の参画を通じ、伝統的町家や近代建築物の再生・活用が今後の重要な課題のひとつであり、これらのためには、ソフト及びハード事業の展開で必要との認識のもと、組織を任意組織である「八木札の辻の町並みを考える会」を発展させ、非営利活動法人にする方向性が出てきた。

2005年 好川忠延

活動の目的

歴史的文化遺産を活かしたまちづくり

この法人は、奈良県橿原市八木及び八木周辺の歴史、文化及び歴史的な建築物や町並み等を歴史的資産と位置づけ、これを活かした「まちづくり」のための事業を行い、八木及び八木周辺の活性化に寄与することを目的とする。

活動の種類

歴史的文化遺産の調査・研究と活用提案

- (1)社会教育の推進を図る活動
- (2)まちづくりの推進を図る活動
- (3)学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4)国際協力の活動
- (5)子どもの健全育成を図る活動
- (6)経済活動の活性化を図る活動
- (7)前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

事業の種類

＜特定非営利活動にかかる事業＞

- (1)建築物、町並み等歴史的資産を活かしたまちづくり推進事業
- (2)文化財、伝統文化、行事の保全・継承及び自然の保護に関する事業
- (3)国際交流・協力にかかる事業

＜その他の事業＞

- (1)特産品開発及び物品の企画・製作・販売に関する事業
- (2)物品、不動産管理及び貸付事業
- (3)各種業務請負事業及び代理事業